

令和7年度 第9回「白山市ミライ会議」会議概要

※会話の順番を入れ替えたりまとめたりしています。
※制度などの説明は、会議開催時点のものです。

日 時:令和7年7月26日(土) 14:00～

場 所:中奥コミュニティセンター

参加者:8名



◆ 既存の団体を5部会に振り分けて主要な行事を運営することからスタートし、新たに防災の取り組みとして自主防災組織ができました

(参加者)

コミュニティセンターとなって1年、コミュニティ中奥としては2年あまりということで、最初の1年間は地域コミュニティ組織と公民館が併存していました。最初組織を作ったときは、既存の団体を5つの部会に振り分けて、これまでやってきたことを継続して、それに新たに何かできないかということで、スタートしました。令和5年度には、防災に関する部分が足りないのではということで、講演会やセミナーをし、そうした中で令和6年度の4月に自主防災組織が新たにできました。

コミュニティ中奥としての活動は5つの部会でそれぞれ主要な行事を進めていただいています。その中で、新たに「中奥ウォーク」というものを試行的に開催しました。地区の多くの方に参加していただきたいと思いましたが、残念ながらあまり参加者が多くなく、コースを整理するなど、今後とも工夫して続けたいと思っています。

中奥地区の人口は増えていますが、事業の参加者はあまり変わらず、固定された方しか参加しないというケースが多いので、特に若い世代にどうやって地域の行事に参加してもらうかは課題です。夏祭りはかなり若い人が参加しているケースもありますが、もう少し、いろいろな会議、会合、あるいは趣味の会合でもいいので、コミュニティセンターを利用してもらうとともに、いろいろな行事を提供し、それに参加してもらう中で、交流を増やしていければなというふうに思っています。

◆ 建て替えたコミュニティセンターが十分に知られていなかったり、組織ではイベント参加者が固定化していたり、どちらも浸透させていくことがこれからの課題です

(市長)

公民館からコミュニティセンターとなり、何か違いとして感じていらっしゃる場所がありますか。

(参加者)

やっぱり皆さんまだ公民館のイメージが強いです。町内会の集会所を公民館と呼びならわしていることも含め、公民館という言葉自体にとっても馴染みがあります。

公民館の名前を単にセンターと変えただけでは、理解は進みません。ここがこう違うということを明確にしていかなければならないように思います。コミュニティセンターと地域コミュニティ組織をどうやって浸透させるかというのは1つの課題かなと思います。

(参加者)

先日選挙では、若い方が以前のコミュニティセンターの建物の方へ入ろうとしていました。本当に浸透していないと衝撃を受けました。

(参加者)

この間の選挙は、このコミュニティセンターができたPRになったのではないかと思います。家族にも、新しいところですから行ったついでに見てきたらという話をしました。若い人にしたら、毎日仕事に行って帰ってくるという生活で、行く機会がありません。これを機会に少しでも出入りしてくれるようになればいいかなと思います。

(参加者)

私の家族も選挙で初めてコミュニティセンターに入り、中々入る機会がなかったということで、喜んでいました。

(市長)

コミュニティセンターの施設については、建て替えをして場所も代わりましたので、馴染むまで時間がかかるかもしれませんね。

地域コミュニティ組織については、中奥では、社会福祉や防災なども、もともと公民館の中でやっていたので、大きな違いを感じないかもしれません。地区によっては、以前は社会教育や生涯学習の事業に特化していて、大きく変化したところもあります。これまでの公民館の業務内

容にも差があったのではないかと考えています。

現在は、白山市全体で、コミュニティセンターとして各部会を設けていただいて、組織を作って、これまでと同様の様々な生涯学習も含めて、防災や健康福祉、その地域の課題の共有や解決などのまちづくりに取り組んでいただいているところが増えています。

そういう意味で、中奥の皆さんは今までもやってきていらっしゃるし、これからはそれを若い方にどうつなげるか、運営そのものの工夫が必要になってくるかなと思います。

- ◆ 新たに「中奥ウォーク」の取り組みを行い、地区の魅力の再発見と、より多い住民の参加を目指し、子どもの参加や小学校との連携などの工夫をしています
- ◆ 授業のお手伝いや運動会時の警備など、地域の団体と学校との繋がりができてきて、今後も継続したいと思っています

(市長)

先ほどのウォーキングも運営をいろいろ工夫されて、学校と連携していませんでしたか。

(参加者)

中奥ウォークという新たな事業は、健康のためや、住んでいるところをよく知ってもらおう、地区の魅力を再発見しよう、という目的で、たくさんの方に参加していただきたいと思って実施しました。

PR 不足だったのか、残念ながらあまり参加者が多くはありませんでしたが、令和7年度は4つだったコースを単純化していこうと考えています。

(参加者)

学校との連携については、東明小学校の5年生に地区のいいところを見つけてもらい、発表会をして、そこをコースに取り入れました。中奥には神社がたくさんあるので、その歴史や成り立ちなどの看板を作って、各神社に立ててもらいました。神社についてそうだったのかと改めて知ることができ、とてもいい看板で、成果と言えるかわかりませんが、良かったなと思います。また、いいスポットを子どもたちに紹介してもらい、それをスタート地点に貼り出して見てもらいました。

私も現在、コミュニティスクールのコーディネーターになったので、3年生に、菜種の生育、菜種の栽培から菜種を使った祭りなどを教えています。また、夏祭りにも参加してほしいので、盆踊りの練習等を一緒にやるというような連携をしています。

(参加者)

昨年、小学校から授業のお手伝いをお願いできないかとお声掛けがあり、5年生と6年生の家庭科の授業に行きました。1クラスに3人ぐらいずつ参加し、ミシンの使い方などのお手伝いをしました。

先日は教頭先生から、今年もまた家庭科の授業よろしくお願ひしますと非常に喜んでいただいていたけれども、できるだけ協力できることはしますよという話もしてきました。そんなことで少しずつ学校等と何かの形で繋がっていければいいかなと思っています。

(参加者)

防犯協会では、数年前から運動会の時に運動場の周りを警備し、不審者がいないか確認を行っています。今まで何もありませんが、これからは何もないように見守りを続けていきたいなと思っています。ただ現在児童の見守り隊のなり手が少なく、隊員数がだんだん少なくなってきましたので、今後それをいかにして増やすかが課題になっています。

◆ 支援が必要な方の把握や、情報共有について、行政や民生委員、町内会、社会福祉協議会、地域コミュニティ組織など、それぞれの役割はどのようになっていますか

(参加者)

中奥地区社協では長年、在宅介護高齢者慰問という活動をしています。しかし近年、福祉協力員や民生委員の方に各地域の対象者を問い合わせてもいないという返事しかきません。いないなら幸せなことですが、国が在宅介護を推奨していますから、実態はそうではないと思います。情報が共有されていないのではないかなと。以前私が民生委員をしていた時は、地区の寝たきり老人はこの方ですよという書類がきていたように記憶していますが、今それは来ていないという話を聞きました。

行事をするときに、福祉協力員さんがわからなければ、町会長さんとか民生委員の方と相談してくださいと言ってはあります。しかし、民生委員さんから聞くと、ある程度の情報をもらってはいますが、あなたのとこの誰さん寝たきりですかとまでは聞けないということでした。町会長さんや民生委員さんには、担当範囲の人のことをわかってもらっていて欲しいのですが、聞けないという話になってくると、やっぱり個人的には聞けないですね。

それでは実態調査になっていないのではないかと思います。それとも民生委員協会の方からそこまでは不要ということになっているのでしょうか。

災害時の支援のために、町内会等に、市役所が支援者の名簿を公開するという制度があったと思います。民生委員には守秘義務があるとは思いますが、名簿が共有されないのは果たしてそれでいいのかと疑問に思っています。

情報を伏せておいて何かあったときに対処しなかったのではないかとと言われると、例えば、災害があった時に、新聞などに民生委員がどうこう非難されるようなことがよく書いてありますよね。

そんなふうに言われたらよくないかなと思います。個人情報取り扱いやプライバシーの問題で変わってきてはいると思いますが、人数くらいなら出せるのではないかと考えて市の社会福祉協議会に問い合わせましたら、市役所に確認しますということで聞いています。

（総務部長）

市では避難行動要支援者名簿というものを整備しています。名簿の登録は、本人や家族から申請をいただいたり、民生委員が気になる方に登録を勧めたりと、民生委員さんにご協力いただいて、ご本人の了解のもと、どんな配慮や支援が必要かといった実状をお聞きして、名簿に登録します。

その名簿は、民生委員に提供しています。また、協定を結ぶことで、町内会や地域コミュニティ組織、自主防災組織に提供することができます。それぞれの町内会なりが協定を結んでいるかどうかという問題はありますが、結べば提供できることになっています。

今おっしゃっているのは、その名簿自体にちゃんとした情報が反映されているかどうか、名簿に本来載せなきゃいけない情報がちゃんと載るかどうかという話ですよね。こちらについては、やはり、配慮の必要な状態であっても名簿への登録を希望されない方はそのご意思を尊重しますし、そもそも配慮が必要であることを伏せたい方は仰らないので、実際には完全な名簿になっていない部分はあるかと思います。民生委員さんには、プライバシーの問題などの難しい中で、できる限りのご協力をいただいています。

（市長）

地域コミュニティ組織となって、社会福祉と自主防災がより連携できるようになったかと思います。今まででしたらそれぞれで動いていた部分もあったと思いますが、最近は自主防災として、各地区の防災訓練へ行きますと、かなり連携してやっていただいているようです。民生委員はもちろん、多くの町内会とも協定を結んでいますので、町会長の方にも情報が渡っていると思います。

（参加者）

町会長が懐に持っておいて、何かあったら出せばいいということではなく、事前に共有しないといけないのではないのでしょうか。福祉協力員の仕事の役割についての説明の中にも、町内会と共同で要支援者を支援してくださいということになっているのに、いきなり災害のときにこうだって言っても支援できないと思います。

例えば耳が不自由な人がいたらドアを叩いていてもわからないですよ。現実問題としてそういう情報も何もなかったら、救援にも行けない。

（市長）

これまで回ってきた地区で、自主防災組織で要支援避難者の把握と支援の仕方について独自に取り組んでいるところもあります。また、地区によっては福祉協力員の方と民生委員の方と町内会

長で会合を持って、お1人お1人の名前を確認して、この人はどんな対応するかというのを確認しているところもあります。

支援が必要な方の把握に関しては、市から提供する避難行動要支援者名簿にしても、地区の自主防災組織や地域コミュニティ組織で独自に調べたものにしても、秘密の厳守や、目的外の利用禁止などは大変重要なことです。しかし、何か起こってから始めて使うというのではなく、災害時に実際に支援できるようにするために、訓練の際にはぜひ名簿を利用していくようにしていただければと思います。そのための名簿ですから。

(参加者)

そういうことも健康福祉部会、社会福祉協議会としてやっていかなければならないということになりますか。

(市長)

地区ごとに、地域コミュニティ組織や自主防災組織で、避難訓練が必要だということでやっていただいています。ただそれを一斉に全部やりなさいって言うと、そこはまた非常に難しいと思います。

(参加者)

わかりました。考えていきたいと思います。

(市長)

能登半島地震では、聴覚障害のある方が白山市に大勢避難されていました。1.5次避難所でも対応が難しく、感染症などもありましたが、手話通訳士がたくさんいる白山市に来ていただいて、病院に行っていただくなどの対応をしました。障害のある方の避難をどうするかということも能登半島地震での課題でした。

本当は、避難のときに気をつけなければいけないことはやはり確認しておかないといけません。地域コミュニティ組織が地区の各団体を結ぶ役割をし、自主防災組織ができたり、防災と社会福祉の部分で連携して考えていったりすると、今出てきたような課題も出てくると思います。

◆ 価値観の多様化により町内会に加入しない方がいますが、ごみステーションの利用など、地域でのルールや助け合いについて悩ましく思っています

(参加者)

最近、町内会に入らない方がいます。町内会に入らなかったらどうなるのかと言われて、いや回覧板は回りませんし、ごみステーションは町内会で管理しているので使ってもらったら困りますというような返事をしましたら、「いや市役所に聞いたらごみステーションは誰が捨ててもいいと言われた」ということでした。どうなのでしょう。

(参加者)

町内会に入っていないなくても、そこに住んでごみは出しますから、ごみ当番の掃除は義務としてありますよという説明をすればいいのではないですか。

(参加者)

他の町内からごみを捨てに来た方がいました。その方は、ごみを回収するのは市の仕事で、ごみを集める人が、効率的に行うために各町内会でステーションを作ってくださいよということでやっているだけで、家1件ずつの前にごみを置いてあっても、それを回収してもらえるはずだというご意見でした。そうかもしれませんが、一般常識としてどうでしょう、そういう人が増えたら困りますね。各町内会でいろいろな問題があると思います。

(参加者)

内灘町にはごみステーションはなく、有料のゴミ袋で家の前に置いて回収するというものでした。ゴミ袋を有料にしてそういうふうにするのも方法でしょうが、白山市は無料なので自分たちでごみステーションを管理して、カラスに襲われないように工夫しながらやっています。

(参加者)

町内会費を払っていないアパートの住民も普通に捨てていますが、ごみの収集のルールだけは守ってくださいよと言ってきました。もう10数年そうしてきましたが、昨年、家主さんが苦労している事情を説明して、心ばかりの会費がいただけるようになりました。

原則そういった方々が捨てに来ても断れないということは、市の方からも聞いていますが、ルールは守っていただきたいです。最近は事業所関係で外国人の方が多く、回収日や分別のルールを守っていない方もいらっしゃいます。外国人用のカレンダーを準備していただいたり、事業所へ行って説明してきたりで何とか少しずつ改善されてきているようです。

(市長)

町内会に加入されない方のごみ捨てについては、どの自治体にとっても悩ましい問題となっています。

白山市のごみ収集は、ステーション方式を採用しています。市の条例で、ごみは地域ごとに共同で設置・管理するステーション(集積所)に出すことと定めています。

ただし、ごみステーションを使用するにあたっては、町内会への加入は義務付けていません。また、他県の裁判でも町内会に加入していないとの理由のみで集積所を使わせないのは違法との判例が出ていることから、町内会や住民からお問い合わせをいただいた際は、そのようにご説明しています。

一方で、先ほどのご意見にもありましたように、町内会には未加入でも、ごみは出すということで、その分の費用と当番に関してはご負担いただくことを町内会が求めるということは可能です。

具体的な金額等については、個々の実情によりますので、市がお示しすることはできませんが、町内会で未加入者を想定したルールを定めるのも一つの方法ですし、場合によっては中奥地区共通のルールとして申し合わせておくのも方法かもしれません。

(参加者)

中奥地区は人口急増地域で、もう 7000 人に迫ります。そうすると価値観の多様化は絶対に出てくるし、それが地域課題になってきます。それはコミュニティ組織中奥で話し合わなければいけないことなのではないでしょうか。

町内会が困っていることを、持ち込まれたときにコミュニティ組織ではどう対応していったらいいのでしょうか。ごみの問題に限らず、公園の使い方であるとか、様々出てくると思います。

(市長)

現在、コミュニティに関わるもので、学校の PTA など、加入は義務ですかというようなことが非常に多くなっています。

町内会というコミュニティと、それがいくつか集まって地区というコミュニティがあります。日本ではコミュニティを形成することによって、行政サービスがうまく動くように作られています。そこを否定されて、私は町内会に入らないという人が出てくると、本当は行政としても厳しいです。しかし無理やり入れることはできません。

これまで、町内会や、地区などのコミュニティでルールをみんなで作って、こうしましょうねっていうのを、ずっとやってきたと思います。新しい方が入って、価値観がいろいろあるという中でも、中奥コミュニティとして、こういうところはやっていきましょうっていうのを理解していただいて、やっていけたら一番いいのではないかと思います。

そのような意味で、今コミュニティ組織をこうやって作っていることで、地域のつながりを維持し、コミュニティという形をしっかりと残したいと思っています。

◆ 交通安全上心配な国道8号線の交差点の改善をお願いしたいと思います

(参加者)

白山市全体としての課題かと思いますが、交通死亡事故が増えています。中奥地区では8号線が大きなネックで、地域の方が交通事故に合わないようするためには、高架化がひとつの方法だと思いますが、なかなかそういうこともできないと思います。

(市長)

乾東の8号線と金沢外環状道路海側環状線の交差で死亡事故が1つありました。国土交通省にお願いをして、その立体交差の計画は進んでいます。地元への説明も今後あると思います。

野々市市長と共に金沢外環状道路の本線の工事を急いで欲しいとの要望もしました。金沢の福久の方は現在工事を行っていますが、こちらの方は立体交差させたいと思います。特にコストコとイオンモール白山の局所渋滞が激しく、大渋滞が起きています。

また、国道8号側も乾の交差点から宮丸までの拡幅を行います。先日金沢河川国道事務所の方には話をし、用地買収をスタートしていますが、まだまだ進んでいません。こも6車線化をするということで進んでいます。

特に乾東の交差点で直進車と右折車の事故が起きたということは、渋滞があつて無理に突っ込んだのではないかなと思います。国土交通省に申し入れをしており、大きい事業で簡単には進みませんが、急いでやってほしいと言っています。

橋爪の方でも、交通事故が発生しています。交通事故死が発生すると、本当に大変なことですので、市としてもしっかり国に対応していただけるように進めていきたいと思います。

(参加者)

また、コミュニティセンターから8号線に合流する徳丸北交差点ですが、直角ではなく変則的になっていて、非常に危険です。8号線を走っている時はいいのですが、コミュニティセンター側から出る時が見えにくく、ラインや矢印もわかりにくくなっています。

(市長)

市の土木課を通じて管理者にお願いし、共に対応を考えていきたいと思います。

◆ 交通公園の整備を提案します

(参加者)

石川県交通安全協会と県警本部が共同で、小学生向けの交通安全こども自転車大会をやっています。今年は、白山市から松任小学校の児童が出場し、13 チーム中 6 位でした。小学校の体育館を借りて練習をしています。

野々市市には交通公園があります。信号や踏切などもある交通公園を松任地区に作っていただけないかなと思います。以前お願いしたときには使用の頻度が少ないと言われましたが、自転車の交通ルールが厳しくなってきたこともあり、子どもたちに教えるためにあったらいいかなと思います。

◆ 若い方の地域コミュニティ組織や行事への参加について工夫していますが、課題も見えてきています

(参加者)

大きな課題は、特に若い人たちになかなか参加してもらえないことです。どうやって組織の中に呼び込んでいくかということは、どこの地区でも課題となっているかと思います。特に中奥地区は人口が増加している中で、若い世代の意見も入れていかないと、持続的な発展は見込めません。まずは行事に参加していただくところから、工夫が必要かなというふうに思います。

(市長)

中奥の夏祭りは、これは何か今までと形態を変えたりしていますか。

チラシを見せていただいたら、いろいろな工夫していらっしゃるように思います。歌手を呼んだり、虫送り太鼓もやったりしていますね。太鼓はここで練習されていると思いますが、若い方もいますか。

(参加者)

小学生のチームと、虫送り保存会の大人のチームと 2 つあります。子どもの方はかなり活発に活動していて、道の駅などで演奏もしています。

(参加者)

以前行われていた松任まつりでは、中奥地区から松明を作って出ていました。歴史的に中奥地区は菜種の産地で、農協の青年部や地区の青年団が中心に、松明は残していこうということにな

り、松任の火まつりがなくなっても続けています。今松明を作ってこういう祭りをしているのは中奥と山島だけでしょか。

昨日松明の担ぎ手の講習会をしましたが、太鼓のメンバーも入れたら120から130名が松明の巡行に携わるということになりました。年齢層はバラバラですが、祭りを通して参加してくれているのではないかなと思います。それに派生して花火隊を作り、手筒花火を上げるなど、若い方に参加していただくような活動をしています。

私たちの世代が公民館に最初に携わったのは青年団です。高校を卒業して青年団に勧誘されて初めて公民館に来ました。今はそういう青年団もなく、その中間を担う壮年会や心和会がかろうじて残っているぐらいです。若いときからそのような組織に入り、世代が上がって順々に地区の活動に関わっていければいいなと思いながら、担ぎ手の若い衆に声をかけていますが、皆さん忙しいようで、今のところは祭りだけ参加している状態です。

若い方の組織や祭りを中心にした会があれば、次のステップは、壮年会、心和会、敬老会の順に上がり、順々に地区の活動に関わっていければいいなと思っています。

（市長）

そうですね。中奥地区はいろいろな工夫をしていらっしゃると思いますが、だからこそ課題が見えてくるのですね。そこはまたコミュニティ組織の活動の中で考えて行ってもらえたらいいと思います。

（市長）

今日は、様々なご意見や地域の課題についてお話を聞かせていただきました。地区での課題として、町内会長会でもいろいろとやっていらっしゃると思いますし、場合によっては要望として挙げていただいて、対応をしていくこともできるかなと思っています。そして、地域でコミュニティを形成して、安全安心な中奥地区がこれからも発展していくことを願っております。特に交通事故の心配がある場所などについては、できるだけ早い時期に改善できるように、私も関係機関に話をしていきたいと思っています。本日はありがとうございました。